

市立病院だより

ほほえみ

発行 越谷市立病院
 発行人 院長 丸木 親
 編集 院内情報誌編纂委員会
 連絡先 〒343-8577
 越谷市東越谷10-47-1
 電話 048-965-2221 (代)
 FAX 048-965-3019
 発行日 平成29年1月 (No.30)

冬の感染症について

冬は感染症を起こしやすくなる

呼吸器科医長

小林 功

冬という環境

冬は気温が下がり空気が乾燥します。冬の流行性感染症インフルエンザの感染経路は主に飛沫感染ですが、空気感染や接触感染でも起きるとも言われています。乾燥により呼吸器免疫が低下し、またウイルスが長期間浮遊しやすい事が冬の流行のひとつの原因と考えられています。ただし、亜熱帯の地方でもインフルエンザは発症しており、日本においても夏の沖縄で発症が見られることから、他の要因もあるかと考えられています。マスク・手洗いは、自身の感染を防ぐだけでなく、他者への感染防止にも有効であるので、意識的に行ってください。

また、インフルエンザワクチンは、いくつかの報告で40%ほど感染を妨げるとの報告もあります。ワクチン接種は、特に同居家族に乳幼児、高齢者、免疫不全者がいる場合、自身の感染ではなく、重症化する人へ移してしまうリスクを考えて接種を検討してください。

冬に流行する感染症

・インフルエンザ

38度以上の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛等の全身の症状が突然現れます。国内では毎年約1千万人、約10人に1人が感染。主な感染経路は飛沫感染、接触感染です。

・ノロウイルス感染症

ノロウイルスによる感染症胃腸炎や食中毒は1年を通して発生しています。特に冬季に流行します。手指や食品などを介して経口で感染し、ヒトの腸管で増殖。嘔吐、下痢、腹痛などを起こします。

・RSウイルス感染症

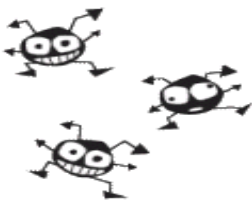
咳、鼻汁など呼吸器症状を引き起こす病気です。生後1歳までに半数以上が、2〜3歳までにほぼ全ての子供が感染するとされており、乳幼児の代表的な呼吸器疾患の原因です。大人が発症する場合があります。

一般的には軽い「鼻かぜ」の症状から始まり、2〜3日後には咳き込み病状が現れます。乳幼児では強い咳き込みや喘息のような喘鳴・呼吸困難、発熱を伴うこともしばしばあり、特に生後6カ月以内の乳幼児が感染した場合、重症化する確率が高くなります。

・溶連菌感染症

急性咽頭炎のほか、扁桃炎、猩紅熱、急性糸球体腎炎、リウマチ熱など溶連菌感染で起きる病気はさまざまです。通常の風邪よりも熱が高く、のどの粘膜が赤く腫れて強い痛みを伴うのが特徴であり、発疹や舌の表面に赤いブツブツができる「莓舌」など、さまざまな病状が現れます。扁桃腺が腫れて膿が溜まるのも典型的な病状です。

また、合併症を引き起こしやすい細菌とも言われています。



マスクの選び方

感染管理認定看護師 小川 昌洋

インフルエンザなどの感染症対策として、マスクは効果があります。しかし、市販されているマスクは多種多様で、マスクを購入する際、どれを購入すればよいか迷うことはないでしょうか。そこで今回、マスクの種類とその用途についてご説明します。

市販されているマスクを大きく分けると3種類に分類されます。

①ガーゼマスク（保湿・花粉対策）、②不織布マスク（花粉・細菌・ウイルス対策）、③N95マスク（特定の細菌・ウイルス対策）に分けられます。この3種類の中で、感染症対策に効果があるものは、不織布マスクとN95マスクになります。しかし、N95マスクは呼吸がしにくく、価格も高価であるため一般の方が使用するにはかなり不向きです。その為、不織布マスクをお勧めします。

また、不織布マスクも大きく分けると①花粉対策用②細菌・ウイルス対策用の2種類に分類されます。花粉対策用と細菌・ウイルス対策用の違いは、フィルター性能（フィルターの細かさ）にあります。花粉は肉眼で見ることができるとは、肉眼で見ることができないくらい小さなものです。その

為、細菌・ウイルス対策用マスクは小さな細菌・ウイルスが通過しにくいように、フィルターが細かく作られています。

以上のことにより、感染症対策でマスクを購入する場合は、**不織布マスク（細菌・ウイルス対策用）**を選択することをお勧めいたします。

インフルエンザなどの感染症を「うつさない」、「かからない」ようにするためマスクの着用にご協力をお願いします。



認定看護師公開講座のお知らせ

当院では、がん性疼痛看護、がん化学療法看護、感染管理、緩和ケア、手術看護、摂食嚥下障害看護、乳がん看護、皮膚・排泄ケアの8分野10名の認定看護師が活躍しております。一昨年から、越谷市民・近隣の皆様に少しでもお役に立てればと、公開講座を開催しております。

今年度も「歳を重ねて自分らしく生きるために健康増進と疾病予防」と題しまして、公開講座を開催いたします。「介護、そのときどうするの?」、「あなたの筋力どれくらい?」、「健康を保つために今できること?」、「いま知っておきたい「がんとは?」がんの治療とは?」という身近なテーマで、超高齢化社会のなかで、自分らしく健やかに過ごすためのお話をさせて頂きます。誰にでも起こりうる病気を介護への備えのために、また自分の筋力を知って無理なく体を動かすために、参加してみませんか。お待ちしております。

日時 平成29年1月24日(火)

午後1時～3時

会場 市立病院西棟3階会議室

参加費 無料

申込み不要。どなたでも参加できます。当日会場にお越しください。

冬の感染症と感染症検査

臨床検査科 五十里 博美

今年の冬はとても急ぎ足でやってきました。例年ならば11月以降にピークを迎えるRSウイルスが今年は10月中旬がピークで、11月早々にインフルエンザに置き換わり、感染性腸炎も各地で猛威を振るっています。体調を整え、マスクや手洗いで冬の感染症を防ぎましょう。

感染症検査の迅速診断

最近はその場で検査できる迅速キットの開発も進み、マイコプラズマなども検査ができるようになりました。陽性の出やすさ(感度)や正確さ(精度)も上がっています。しかし、検査のタイミングによつては結果が偽陰性となったり、年齢などによつて保険が適応にならない検査もあります。

・インフルエンザウイルス

発熱後6〜8時間くらいから陽性になります。発熱初期は陰性でも半日後の検査で陽性と診断されることもあります。未治療の場合5〜6日目までウイルスが出ますがタミフルなどの抗インフルエンザ薬は発熱後48時間後までしか効果がありません。B型インフルエンザは服用後もウイ

ルスの残存が見られることがあります。検査感度はその年の流行株によりますが培養法と比較して91〜97%です。

・RSウイルス

乳幼児がかかる呼吸器疾患ですが、お年寄りの集団感染がみられることもあります。初期の段階から大量のウイルスが出るが多く、鼻腔の吸引液で検査ができます。保険適応の範囲は入院の必要な場合と外来では1歳未満の乳幼児のみです。インフルエンザの流行前後にそれぞれ患者のピークがあります。

・ノロウイルス

人によつては激しい嘔吐と下痢を繰り返す苦しい疾患です。同様の症状を起こすウイルスがいくつもありますが、ロタウイルスはワクチンのおかげで激減しました。ノロウイルスは少量の便で検査できますが、保険適応者は重症化しやすい3歳未満の乳幼児と65歳以上のお年寄り及び重篤な基礎疾患のある方となっています。食品関係のお仕事をされている方が陰性化の診断書を取りにいます。すが、そういう方には遺伝子を使ったノロ検査をお勧めしています。費用はかさみますが感度が非常に良いため安心です。

新採用医師の紹介

○9月1日付

(脳神経外科)

寺本紳一郎
てらもと しんいちろう

○10月1日付

(呼吸器科)

鈴木 宣史
すずき よしふみ

(小児科)

小島 千春
こじま ちはる

○12月1日付

(呼吸器科)

中村 貴裕
なかむら たかひろ

(産科)

加藤 顕人
かとう けんと

編集後記

新年明けましておめでとうございます。昨年はオリンピック、パラリンピックで元気や感動をいただき盛り上がりましたね。今年はどうなるか、今から楽しみです。健康管理をより一層気をつけて元気にごしたいですね。

院内情報誌編纂委員長 尾羽澤 英子